

2021年度重点領域研究助成費実績報告書

2022年 3月31日

報告者	学科名	ビジュアルデザイン	職名	准教授	氏名	齋藤 美絵子
研究課題	ユーザ・アジャスタブルな減災情報提供システムの検討					
研究期間	2021年度～2021年度					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	齋藤美絵子	ビジュアルデザイン 学科・准教授	ビジュアルデザイン	研究立案・統括 視覚伝達および情報デザイン	
	分担者	風早由佳	ビジュアルデザイン 学科・准教授	英語教育、低年 次教育	低年齢対象者の調査	
		佐藤ゆかり	現代福祉学科・准教授	社会福祉学	要援護者分析	
		齋藤誠二	人間情報工学科・教授	人間工学	身体機能評価	
		綾部誠也	人間情報工学科・教授	応用生理学	身体機能評価	
大山剛史	人間情報工学科・助教	運動制御	身体機能評価			
研究実績の概要	<p>本研究は、今日ますます求められている「個人の災害対応力」を向上させるためのデジタルツールの開発に向けた検討を目的とし、本学の多様な研究分野を担う研究者が学際的にアプローチするものである。</p> <p>近年では、行政により「洪水ハザードマップ」や「マイ・タイムライン」といった水害に備えた行動計画を支援するツールも整備されているが、ツールの正しい使い方に加え、家屋の立地や構造、家族や同行者の有無など、個別のファクターを考慮することが求められるため、適時適切な避難行動を計画することは容易ではない。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>さらに、土地勘のない場所に滞在することや感染症の罹患などから一時的・突発的に考慮しなければならないファクターが変化することは誰にでも起こり得る。あらゆることを想定して避難行動を計画し、実際に行動するためには、想像力と複雑な情報を処理する高度な能力が必要である。</p> <p>適時適切な避難について計画および行動ができる能力のことを本研究では災害対応力と呼び、それを支えると考えられるいくつかの能力とその能力に関連する要因について明らかにすることを目的とし、一般市民を対象に調査を行った。具体的には、一般市民が自身の災害対応力についてどの程度自覚しているのかについて自身の主観による自己評価を行い、その評価結果に影響を与える要素を明らかにすることを目的にアンケートを設計し実施した。</p> <p>災害対応力を支える能力として「災害に関する情報理解力」、「災害時の判断力」、「災害時の行動力」、「災害時の体力」をあげ、それぞれの自己評価結果が示された。特に自己評価は性別によって違いがあることがわかった。また、それぞれに関連すると考えられる要因について解析すると、「災害に関する情報理解力」には「普段から防災・減災情報を得ているか」どうかに関連し、「災害時の判断力」には「自身の住む地域の土地勘」が関連することが明らかとなった。「災害時の行動力」と「防災訓練への参加」が関連するとまでは言えなかったが、「災害時の体力」は「自覚する体力」と関連することがわかった。</p> <p>上記の結果について、第12回横幹連合コンファレンス（2021年12月開催）において口頭発表を行なった。加えて、他の調査項目について解析した結果については国際会議（27th conference of International Association People Environment Studies / 2022年7月開催予定）において口頭発表を行う予定であり、得られた知見を用いて改良したデジタルハザードマップの効果については、国際会議（13th Symposium of International Urban Planning and Environment Association / 2022年7月開催予定）において口頭発表を行う予定である。さらに、本研究の調査および分析から着想に至った研究『隠れ災害弱のための水害時行動計画アプリの開発』について令和4年度科研費 基盤研究（B）に申請したところ、令和4年度より採択の内定を得た。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『住民の災害対応力における自己評価とその要因』、齋藤美絵子、佐藤ゆかり、基幹科学技術研究団体連合、第12回横幹連合コンファレンス、2021年12月 ・ “Basic Survey of Disaster Risk and Coping Skills of Residents”, Mieko, Saito; Yukari, Sato, 27th conference of International Association People Environment Studies - IAPS, 2022（アブストラクト審査通過および発表予定） ・ “Development of a Digital Hazard Map for Evacuation Planning”, Mieko, Saito; Seiji, Saito; Ryo, Matsunaga; Makoto, Ayabe, 13th Symposium of International Urban Planning and Environment Association - IUPEA, 2022（アブストラクト審査通過および発表予定） ・ 科研費 基盤研究（B）『隠れ災害弱のための水害時行動計画アプリの開発』、齋藤美絵子（代表者）・佐藤ゆかり・風早由佳・綾部誠也・齋藤誠二・大山剛史、令和4～7年度（採択内定）